

高校生向け 年 組

(161)

(2023年4月21日付・下野新聞1面)

在住外国人4万4741人

22県内 3年ぶり増、最多に

県内に住む外国人が2022年12月末時点で4万4741人となり、過去最多となったことが20日までに、県のまとめで分かった。前年に比べ3071人(7・4%)増と、3年ぶりに増加に転じた。在留資格のうち、人手不足を背景に19年に新設された「特定技能」が大幅に増加した。新型コロナウイルスの水際対策の緩和と、経済活動の再開で労働力の需要が増したことが影響したとみられる。

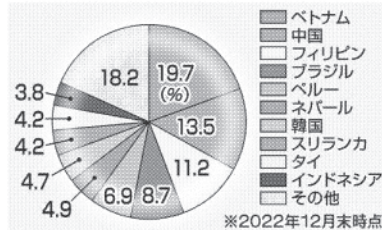
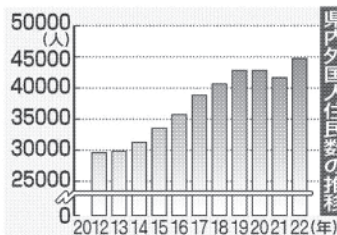
(渡辺和博)

特定技能2倍超 企業の需要拡大

県内外国人数は13年から増加が続いていたが、コロナ禍で20年から減少。22年10月には政府が入国者数上限を撤廃するなど段階的に

水際対策を緩和したため、再び増加した。県人口に占

国籍・地域別の外国人
住民数の割合



ズーム 特定技能 人手不足に対応するため、国が2019年に創設した在留資格。飲食料品製造業、農業、介護など12分野の「1号」(在留期間は通算5年)と、熟練した技能が必要で何度でも在留期間を更新できる「2号」がある。22年末時点で約13万人が働く。

める外国人の割合は0・17%増え、過去最高の2・32%となった。在留資格別に見ると、永住者が1万4028人(2・0%増)、技能実習が6366人(15・9%増)、大卒程度の「技術・人文知識・国際業務」が4256

人(19・6%増)など。人手不足が深刻な分野で就労が認められた特定技能

は、2倍以上となる2354人(127・2%増)で、県民協働推進課は「コロナ禍前より、企業などでの人材の受け入れが進んでいる」としている。栃木労働局によると、特定技能は飲食料品などの製造業、介護、建設業の順に増加がみられるという。国籍別ではベトナムが14・4%増の8792人で最多。中国6029人、フィリピン4998人、ブラジル3888人、ペルー3099人と続く。アジア・南米で全体の97%を占める。市町別では宇都宮市が9797人と最も多く、次いで小山市が7180人、足利市5046人、栃木市4392人、真岡市3725人。真岡市は人口に占める割合が4・69%と県内最高だった。本県人口が減り続ける中で、今後も外国人数が増える見込まれている。

設 問

【1】記事に照らして、在留資格のうち2019年に新設された制度は何か答えてください。

【2】記事に照らして、栃木県人口に占める在住外国人が4万4741人で2.32%だとすると、およそ栃木県の人口は何人になるか。下から選んで答えてください。

①約19万人 ②約95万人 ③約190万人 ④約285万人

【3】記事に照らして、栃木県内の外国人について、正誤を○×で答えてください。

- ①2013年以降、県内外国人は一貫して増加し続けている
- ②年度別の県人口に占める外国人の割合は、2022年度が過去最高だった
- ③在留資格別に見ると、約4万人のうち、技能実習が最も多い
- ④人手不足が深刻な分野で就労が認められた特定技能は2倍以上に増えた

【4】記事に照らして、本県の外国人労働者について、正誤を○×で答えてください。

- ①県内で働く外国人は、中国が最も多い
- ②地域別には東南アジアが最も多い
- ③在住外国人のうち、南米地域からの割合は15%以上である
- ④市町別の人口に占める在住外国人の割合は宇都宮市が最も多い

【5】記事の内容を踏まえて、あなたは在住外国人について、何が課題でどのような対策が必要だと思いますか。以下の語句を用いて100字程度で自由に論じてください。

語句…エスノセントリズム／マルチカルチュラルリズム